自立活動の実態把握と指導目標のプロセスⅡ

企画者　渡邉　弘規（福島県立郡山支援学校教諭）
司会者　菅野　和彦（福島県教育庁いわき教育事務所指導主事）
話題提供者　近藤　聡美（福島県立郡山支援学校教諭）
五十嵐亜子（福島県立いわき支援学校教諭）
指定討論者　分藤　賢之（文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官）
長沼　俊夫（日本体育大学体育学部教授）

KEY WORDS: 自立活動，実態把握の整理、目標設定までのプロセス

【企画趣旨】

文部科学省は、このほど特別支援学校小学部・中学部学習指導要領の改定案を公表し、自立活動の指導内容は、６区分２７項目となることが示された。また、小中学校の次期学習指導要領では、特別支援学級や通級による指導で実施する特別な教育課程において、特別支援学校の「自立活動」を取り入れたり、参考にしたりすることが示され、「自立活動」は、これまで以上に多くの学校で取り扱われることとなる。

しかし、自立活動の指導の目標を設定する場合、教科のように目標の系統性が示されていないため、実態把握から「なぜその目標にしたのか」や「どのように検討し導き出されたのか」について、明確に示している例は多くはないことから、「何を学ぶのか」は、担任・担当者に委ねられ、授業が展開されることが多い。

そこで、本シンポジウムでは、特別支援学校（肢体不自由教育）における事例を通して、昨年度のパートⅠで企画した「実態把握から指導目標・内容を導き出すプロセス」における発表内容と参加者からの貴重なご意見を踏まえ、次のようなプロセスを示していきたい。

(1)　実態把握の整理
・自立活動の６区分での整理
・教育的ニーズ及び中・長期的な視点から整理
・学習上又は生活上の困難さの視点で整理　など
(2)整理した実態から指導すべき課題の検討
(3)指導すべき課題から中心的な課題の検討
(4)「何を学ぶのか」を大切にした指導目標の設定
(5)具体的な指導内容の設定

これらのプロセスを話題提供者より示してもらい、上記(1)～(5)までの手続きの可視化と指導の継続性の意義等についても考えていきたい。

【話題提供者の趣旨１】

話題提供者

福島県立郡山支援学校　近藤　聡美

特別支援学校（肢体不自由）の準ずる教育課程で学ぶ小学部低学年の事例である。Ａ子は、摂食、嚥下の身体的な困難さがあり、胃ろうによる栄養摂取が必要なことから医療的ケア対象児である。音声による会話が難しく、指導の当初は、指文字や手話を使ってコミュニケーションを図っていた。筆記については、斜視による見え方の困難さがあり、文字の形を整えることが難しく、時間がかかる。文字を読むことについては、「誰が」「何を」「どのように」などを理解し、伝える意欲のある児童である。また、居住地校交流を徐々に進め、地域の小学校へ転学した児童の事例である。

発表では、教育的ニーズ及び中・長期的な視点と学習上又は生活上の困難さの視点で整理し、目標設定までのプロセスを示し、「何を学ぶのか」について話題を提供する。

【話題提供者の趣旨２】

話題提供者

福島県立いわき支援学校　五十嵐亜子

特別支援学校（肢体不自由）の自立活動を主とした教育課程で学ぶ小学部高学年で、昨年度のパートⅠで提供した事例である。Ｂ男は、全盲でうずくまっていることが多く、他者からのガイダンス、姿勢変換等に対して、自傷行動を示す。具体的には、抱っこから降ろされそうになると激しい自傷行動がみられることがある。表情の変化から、快・不快の気持ちを読み取りにくい。また、CD の音楽やギター演奏、教師の言葉掛けに対し、動きを静止することがある児童の事例である。

発表では、前担任（昨年度の話題提供者：佐藤）から引き継いだ学習状況を踏まえ、再度中心的な課題を検討し、「何を学ぶのか」を踏まえた指導目標・内容の設定について話題を提供する。

【指定討論者の趣旨】

自立活動の指導には、「これが唯一無二の正解」はない中で、「なぜ、今、この目標を設定し、この指導内容・方法を選択したか」の判断と説明は、指導を担う教師に求められる。指導目標を設定するまでには、障害があるためにどのような困難が生じているかを的確に把握することに加え、その背景にある要因を分析することがとても重要である。一つの場面だけで要因を結論づけるのではなく、多角的な視点・場面から情報を収集・分析して判断することが求められる。また、指導目標に適応した指導内容と方法の選定に際しては、様々な条件を勘案することが求められる。

本取組から、「目標設定まで」と「指導内容・方法の選定まで」のプロセスについて、成果と課題を考究したい。

（長沼　俊夫氏）

企画趣旨のとおり、自立活動の指導を通して、「どのような姿を目指して何を学ぶのか」が明確になっていないと、指導の継続性を担保することは難しい。そのような中、「実態把握から指導目標・内容を導き出すプロセス」に、実態把握の整理の観点として「教育的ニーズ及び中・長期的な視点から整理」が導入されている。このような観点を取り入れた背景と、自立活動の指導の継続性や指導の成果を高めることとの関連について、特別支援学校学習指導要領の改訂を担う立場から、本取組の成果及び課題について言及する。

（分藤　賢之氏）

(WATANABE Hironori, KANNO Kazuhiko, KONDOU Satomi, IGARASHI Ako, BUNDOU Noriyuki, NAGANUMA Toshio)